

授業科目名・形態	障害児・者福祉 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	中里 操・高橋 俊文	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

「障害」について制度面を含めた理解を深めるとともに、広汎性発達障害などの近年になって社会的な関心が高まっている「障害」についても理解を深める。さらに、就労支援、ボランティアによる支援など、「障害」のある人々を含め全ての人にとって暮らしやすい社会づくりがどうあるべきかを考え、将来、看護や福祉の専門職としての実践に活用できる知識や理念を修得する場とする。

【到達目標】

1. 社会的な関心が高まっている「障害」について理解する。
2. 障害者施策と支援の仕組みを理解する。
3. 「障害」のある人々を含めすべての人にとって暮らしやすい社会づくりについて理解すること。

【授業計画・内容】

- 第1回 障害者福祉における社会福祉士・精神保健福祉士の役割
- 第2回 障害者の生活実態①（地域移行、居住、就学、就労、）
- 第3回 障害者の生活実態②（高齢化、介護需要、障害者の芸術、障害者のスポーツ）
- 第4回 障害者を取り巻く社会環境（バリアフリー、コンフリクト、障害者虐待、親亡き後の支援）
- 第5回 障害者福祉の理念と変遷（偏見と差別・障害者権利条約・障害者基本法）
- 第6回 障害者福祉制度の歴史（1）（戦前・戦中までの障害者対策・戦後障害者施策の始まりと展開）
- 第7回 障害者福祉制度の歴史（2）（障害者運動の高まり障害者施策の展開）
- 第8回 障害者福祉制度の歴史（3）（社会福祉基礎構造改革と障害者福祉施策の展開）
- 第9回 障害者施策と法制度（障害者基本法・障害者自立支援法・障害者総合支援法）
- 第10回 障害者に対する法制度（1）（身体障害者・知的障害者・精神障害者の各福祉法、児童福祉法・他）
- 第11回 障害者に対する法制度（2）（障害者虐待防止法・障害者差別解消法・障害者雇用促進法・他）
- 第12回 障害者福祉における関係機関の役割
- 第13回 障害者福祉における専門職の役割
- 第14回 障害者福祉における相談支援の実際（虐待相談、就労相談、居住相談）
- 第15回 これからの障害者福祉

【授業実施方法】

講義形式で行う。

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を中心に、講義中に指摘する障害に関わる問題について、新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】

「社会福祉概論」「社会保障論」

【教科書等】

新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック『障害者福祉』 ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時、講義の中で紹介する。

【成績評価方法】

授業への取り組み姿勢 20%、提出レポート・期末試験 80%で総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設での就業経験を活かし、授業を通して障害者福祉の基本知識だけでなく、実務経験から得た知識・技術・価値を統合する能力についても高めていきたいと考えている。

【学生へのメッセージ】

本講義では、障害児並びに障害者の生活権、成長発達権、学習権（学校教育・生涯学習）・労働権の確率・保障という視点から障害者福祉に関する認識を深めていきます。受講生は、社会の中で生起する障害者（児）を巡る問題に関心を持ち続けながら、主体的な学びの場として受講してください。